

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成31年4月7日	評価結果市町村受理日	令和元年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2290500061-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2290500061-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31 年	4 月	20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設に入居する前の暮らしや、習慣などの楽しみ方が続けられるような環境作りを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。</li> <li>・毎月家族にお手紙と施設のお便り、健康状態について送付し、施設での様子をお伝えしている。</li> <li>・勉強会の年間計画を立て毎月職員2人1組で担当し、質の向上に努めている。2か月に1回の運営推進会議では近所の方の出席もあり、日頃の運営にも協力的である。</li> <li>・地域の行事の活動に積極的に参加し、地域の方との交流を大切にしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に恵まれた静かな環境の事業所は周りを見ていると四季の移り変わりが感じられる所で、利用者の中には山を眺めたり小川のせせらぎを聞いてリフレッシュされている方がいる。日中はリビングに集まっている方が多いが、利用者のペースで、部屋でくつろいだりテレビを見たりと自分らしく暮らせる支援をしている。支援にあたっては事業所内研修や会社の研修に参加を促し、職員はより良い介護を実践できるように心がけている。また、今年度は外出支援に力を入れ、初めて熱海のジャガランダ祭りに出かけ、海岸線を歩いた。近隣住民との交流もあり、年6回開かれている運営推進会議や事業所の祭りにも参加してもらっている。職員は情報共有をして支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認できるようにリビングに掲げ共有している。食事・入浴・排泄について具現化したマニフェストがある。実践につなげる為、月1回の勉強会の実施や地域の研修会などに参加している。	理念の実践に向けて、法人研修や事業所内研修に力をいれている。外部の研修にも出かけられるし職員が参加している。居間に掲げている理念は絵のようなさり気なさが好印象である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練に参加したり、施設の行事開催時には案内を配布し近所の方が訪問してくださっている。また、2か月に1度の運営推進会議に参加していただき、ご利用者の状況を把握して頂いている。	自治会より、行事のお知らせがあり、事業者だよりも回覧してもらっている。地域の防災訓練に職員と利用者が参加している。近所の人にも協力的である。夏、秋祭り等事業所の行事に近所の人を誘っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による認知症サポーター養成講座を地域の施設や住民・小学生向けに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。事故報告や研修報告、ご利用者の日常の様子、行事等に参加された様子など、スライドショーにまとめて報告。その場の意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度開催し、スライドショーと事故報告を包み隠さず行い、参加者に公正さがあると好評を得ている。議事録は家族に送付し、職員会議でも活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、施設の状況を報告している。生活保護受給者の担当の方には、毎月の手紙と新聞を届けご利用者の様子を伝えている。	市と包括支援センターの職員は運営推進会議に必ず出席してくれているので、その前後に意見交換をしている。また、加算のことや入居のこと等相談しやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の勉強会を開催。特に言葉による拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、2か月に1度の運営推進会議でも、身体拘束について報告している。	高齢になり、転倒のリスクはあるが身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会を中心に法人、事業所の研修も行っている。スピーチロックに関しては気づいた時に施設長、ユニットリーダーが注意をするようにしている。	

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について自己チェックシートを用いて、日頃のケアを振り返り施設内での虐待防止に努めている。また虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、成年後見制度について理解を深めている。また、ご利用者で実際に成年後見人が付いている方や、今後制度を利用する可能性のある方を例に実践的に理解するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご利用者やご家族の不満や疑問点を伺い、十分な理解・納得を得たうえで締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設単位では玄関口への意見箱の設置や、2か月に1度の運営推進会議で地域及び関係者・家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。法人としては「お客様満足度アンケート」を行い、その結果をもとに具体的な改善計画を作成し反映させている。	年に1回、法人が家族にアンケートをとっている。その結果を分析し改善計画をたて、運営に反映させている。具体的な意見より受診結果の詳細を家族に知らせるように改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員は意見や提案を管理者に伝える機会がある。日頃のケアに向ける問題点や疑問点も相談しやすい環境にあり、互いの意見を尊重し合いながら対応することが出来ている。	月に1回の全体会議や職員のシフトの関係でユニット間の職員交流が行われている。職員同士は話しやすいと職員ヒヤリングで確認できた。法人の個人シートが1年に1度配られ、職員は意見を言う機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を導入して、管理者や職員個人の努力や実績、勤務状況を把握し、能力給として反映することで向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理者研修といった各々のキャリア能力に合わせた研修を設けている。また、本年度より新しく介護予防運動指導員の講習を自社で設け、法人内外の受講者を募り、開催している。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡や介護支援専門連絡協議会にも加入し情報交換等を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には管理者、計画作成担当者が本人と面談し、不安に思っていることや要望等を聞き、安心出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前には管理者、計画作成担当者が家族と面談し、要望等を聞き出来る限り応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を希望しているのか入居前情報を確認し、再度本人や家族と確認しその方に合うサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で本人が出来ることは行って頂き、共同生活・集団生活を意識して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際には本人と家族との写真を撮影し、居室に飾り家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人と面会等の希望があれば対応している。本人の馴染みの場所に行きたいという要望があれば出来る限り行けるように努めている。	利用者の友人が時々、訪れてくれることがある。また、新しくなった熱海駅を見たいという利用者の要望で、車で見に行き、行く途中で昔のことを思い出して話がはずんでいた。	

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団樂の場所を提供し談笑されたり、共同作品を作る機会を提供する等、様々な場できっかけ作りをしている。また、生活の中で利用者同士で家事を行ったり、外出する支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族に1回以上聞き取りを行い、フェイスシートを作成し、職員に把握してもらっている。また、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の聞き取りには施設長、ケアマネジャーが出向いている。法人独自のフェイスシートに情報を記入し、職員が共有している。日常的に利用者の様子を観察し、利用者が何をしたいのか考えながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得ようとしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回のモニタリングを実施。計画書を作成する前には本人や家族に希望や要望等を伺い、必要時には主治医や看護師の意見も参考にしている。また、入院時など状態の変化に応じて関係者と話し合い計画書を作成している。	変化のある利用者のカンファレンスは常に行っている。家族や医師、医療機関の看護師、訪問看護師の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状態の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診の希望のある方、入院されている家族への面会、知人宅へ遊びに行きたい、毎日歩きたい等、本人の「○○したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、施設やご利用者について理解して頂いている。本年度は新たに地区の幼稚園児との交流会にも参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の全員往診の他、皮膚科往診、状態に変化がある場合や緊急時には24時間相談できる環境にあり指示を仰いでいる。必要に応じて他科受診対応も行っている。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。	全員が協力医に往診してもらっている。それ以外の受診も職員が行っている。受診結果は家族に知らせている。必要に応じて、歯科医の往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。	入居時に同意書を取り、3ヶ月毎に確認をし、毎年更新している。終末期になると医師が家族に連絡をし、説明をしてくれる。マニュアルも整備され、1年に1回は研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災想定防災訓練を実施し、11月の訓練時は災害時の連絡方法の周知や地震想定緊急連絡訓練も行っている。同月の運営推進会議でその旨を報告し、地域の方々や行政・地域包括の方々と情報を共有し、避難方法などについて意見を頂いて、避難誘導マニュアルに活かしている。	火災の訓練は夜間想定を主に行っている。近所の住民の協力も得ている。備蓄は近所の高齢者の分も考慮し、余裕を持って備えている。部屋ごとにヘルメットが置かれている。	水害、土砂災害の対応で1階の利用者を2階にあげる訓練の必要性を感じているので、実施して下さい。他の災害想定避難シュミレーションも行って下さい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と同じ目線で話し、耳が遠い方には耳元でゆっくり丁寧に話したり、筆談を行うなど、その人その人に合った対応、言葉かけをしている。またトイレ介助やおむつ交換の際はドアを閉め、プライバシーに配慮した対応をしている。	接遇研修は法人と施設で行っている。利用者が驚かないように声のトーンに気をつけている。利用者の人格を尊重し、利用者が嫌がることはしないケアをしている。対応ができていない職員には施設長やリーダーが注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「餃子が食べたい」と仰るご利用者の希望を取り入れ、施設での行事に餃子パーティーを設け、他のご利用者と召し上がっていただいたり、誕生日に食べたい物を伺い、用意して召し上がって頂く等、本人の希望を取り入れた施設運営を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の会話や様子から一人一人の生活リズムやペースを把握し、居室やリビングで過ごしたい方、外を散歩したい方、運動したい方等各々の希望にそって支援している。本年度は介護予防運動指導員の職員が主体となり、ご利用者のペースで行える下肢の運動の指導もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容室があり、カットやカラーリングをして頂いている。外出や行事の際は特におしゃれで季節に合った服を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や禁食の把握はもちろん、嫌いなものは別のものに変え提供する等個々にあった対応をしている。また野菜の皮むきや料理の配膳等ご利用者の出来ることを手伝って頂き、ご利用者と職員と一緒に食事の準備をしている。	食材は配達業者から3食取っているため、栄養面やカロリーは安心である。利用者の中でできる人はじゃがいもの皮むき等手伝ってもらっている。ラーメンを食べに行ったり、お寿司を取るなど楽しみを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂りにくいご利用者には、食事の間々で飲んで頂くように声掛けをしたり、その方の飲みやすいもので補給して頂くようにしている。食事摂取量が少ない方には栄養剤を食事代わりに飲んで頂くなど、栄養が不足しないよう努めている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	排せつチェック表に水分摂取量、尿、便の回数を書き込み支援している。できるだけトイレで排泄するように利用者のサインを見逃さないように努めている。高齢化が進んでいるが夜間おむつの利用者は2人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き、遅い時間でも可能な限り対応している。また、シャンプーや入浴剤など好みの物を使用することも可能。菖蒲湯やゆず湯等季節を感じて頂く等、入浴を楽しむ支援をしている。	日頃は午前中に入浴している。少なくとも週に2回は入浴してもらおう。入浴中は歌を歌ったりゆったりしてもらおう。入浴剤や菖蒲湯ゆず湯を使い、気分転換を計るようにしている。拒否者には言葉がけを工夫して入浴を進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字を書く事が得意とする方には献立を書いて頂く等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		



静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き風景を楽しんだり、4月にはお花見に行き、自然を感じて頂いている。本年度は熱海の観光地にも出掛け、開催中の花まつりを鑑賞しながら散歩するなど、普段はなかなか参加できない市の観光行事に参加することができた	昨年は熱海のジャカランダ祭りに初めて出かけて、利用者は車から降りて街中を楽しんだ。桜の星に車で出掛け、四季を楽しんでもらっている。全員で一度に出かけられないため、何回かに分けて実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の管理能力を考え可能な方は、お金を所持して頂き出かけた際の支払いをして頂いている。また、普段は本人が所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らの希望により手紙を書いていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。	自然に恵まれた環境で四季が感じられる。山や小川を部屋から眺め、気分転換をしている利用者がいる。感染防止のために手すり、ドアノブ、床等は消毒に気を配っている。転倒防止用のマットも素材を吟味し、時々外して洗うようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性同士の座席や気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、別にテーブルを置き過ごされる場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切りぬきを飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	仏壇やタンスを持ち込み、それぞれ個性のある部屋になっている。部屋の入口で靴をぬぐ利用者の転倒防止のために、入口に椅子を固定する等の工夫をしている。季節用品の入れ替えは職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成31年4月7日	評価結果市町村受理日	令和元年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JgyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31 年	4 月	20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設に入居する前の暮らしや、習慣などの楽しみ方が続けられるような環境作りを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。</li> <li>・毎月家族にお手紙と施設のお便り、健康状態について送付し、施設での様子をお伝えしている。</li> <li>・勉強会の年間計画を立て毎月職員2人1組で担当し、質の向上に努めている。2か月に1回の運営推進会議では近所の方の出席もあり、日頃の運営にも協力的である。</li> <li>・地域の行事の活動に積極的に参加し、地域の方との交流を大切にしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認できるようにリビングに掲げ共有している。食事・入浴・排泄について具現化したマニフェストがある。実践につなげる為、月1回の勉強会の実施や地域の研修会などに参加している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練に参加したり、施設の行事開催時には案内を配布し近所の方が訪問してくださっている。また、2か月に1度の運営推進会議に参加していただき、ご利用者の状況を把握して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による認知症サポーター養成講座を地域の施設や住民・小学生向けに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。事故報告や研修報告、ご利用者の日常の様子、行事等に参加された様子など、スライドショーにまとめて報告。その場の意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、施設の状況を報告している。生活保護受給者の担当の方には、毎月の手紙と新聞を届けご利用者の様子を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の勉強会を開催。特に言葉による拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、2か月に1度の運営推進会議でも、身体拘束について報告している。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について自己チェックシートを用いて、日頃のケアを振り返り施設内での虐待防止に努めている。また虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、成年後見制度について理解を深めている。また、ご利用者で実際に成年後見人が付いている方や、今後制度を利用する可能性のある方を例に実践的に理解するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご利用者やご家族の不満や疑問点を伺い、十分な理解・納得を得たうえで締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設単位では玄関口への意見箱の設置や、2か月に1度の運営推進会議で地域及び関係者・家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。法人としては「お客様満足度アンケート」を行い、その結果をもとに具体的な改善計画を作成し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員は意見や提案を管理者に伝える機会がある。日頃のケアに向ける問題点や疑問点も相談しやすい環境にあり、互いの意見を尊重し合いながら対応することが出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を導入して、管理者や職員個人の努力や実績、勤務状況を把握し、能力給として反映することで向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理者研修といった各々のキャリア能力に合わせた研修を設けている。また、本年度より新しく介護予防運動指導員の講習を自社で設け、法人内外の受講者を募り、開催している。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡や介護支援専門連絡協議会にも加入し情報交換等を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には管理者、計画作成担当者が本人と面談し、不安に思っていることや要望等を聞き、安心出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前には管理者、計画作成担当者が家族と面談し、要望等を聞き出来る限り応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を希望しているのか入居前情報を確認し、再度本人や家族と確認しその方に合うサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で本人が出来ることは行って頂き、共同生活・集団生活を意識して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際には本人と家族との写真を撮影し、居室に飾り家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人と面会等の希望があれば対応している。本人の馴染みの場所に行きたいという要望があれば出来る限り行けるように努めている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団樂の場所を提供し談笑されたり、共同作品を作る機会を提供する等、様々な場できっかけ作りをしている。また、生活の中で利用者同士で家事を行ったり、外出する支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族に1回以上聞き取りを行い、フェイスシートを作成し、職員に把握してもらっている。また、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回のモニタリングを実施。計画書を作成する前には本人や家族に希望や要望等を伺い、必要時には主治医や看護師の意見も参考にしている。また、入院時など状態の変化に応じて関係者と話し合い計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状態の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診の希望のある方、入院されている家族への面会、知人宅へ遊びに行きたい、毎日歩きたい等、本人の「○○したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、施設や利用者について理解して頂いている。本年度は新たに地区の幼稚園児との交流会にも参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の全員往診の他、皮膚科往診、状態に変化がある場合や緊急時には24時間相談できる環境にあり指示を仰いでいる。必要に応じて他科受診対応も行っている。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災想定防災訓練を実施し、11月の訓練時は災害時の連絡方法の周知や地震想定緊急連絡訓練も行っている。同月の運営推進会議でその旨を報告し、地域の方々や行政・地域包括の方々や情報を共有し、避難方法などについて意見を頂いて、避難誘導マニュアルに活かしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と同じ目線で話し、耳が遠い方には耳元でゆっくり丁寧に話したり、筆談を行うなど、その人その人に合った対応、言葉かけをしている。またトイレ介助やおむつ交換の際はドアを閉め、プライバシーに配慮した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「餃子が食べたい」と仰るご利用者の希望を取り入れ、施設での行事に餃子パーティーを設け、他のご利用者や召し上がっていただいたり、誕生日に食べたい物を伺い、用意して召し上がって頂く等、本人の希望を取り入れた施設運営を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の会話や様子から一人一人の生活リズムやペースを把握し、居室やリビングで過ごしたい方、外を散歩したい方、運動したい方等各々の希望にそって支援している。本年度は介護予防運動指導員の職員が主体となり、ご利用者のペースで行える下肢の運動の指導もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容室があり、カットやカラーリングをして頂いている。外出や行事の際は特におしゃれで季節に合った服を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や禁食の把握はもちろん、嫌いなものは別のものに変え提供する等個々にあった対応をしている。また野菜の皮むきや料理の配膳等ご利用者の出来ることを手伝って頂き、ご利用者と職員と一緒に食事の準備をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂りにくいご利用者には、食事の間々で飲んで頂くように声掛けをしたり、その方の飲みやすいもので補給して頂くようにしている。食事摂取量が少ない方には栄養剤を食事代わりに飲んで頂くなど、栄養が不足しないよう努めている。		



静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き、遅い時間でも可能な限り対応している。また、シャンプーや入浴剤など好みの物を使用することも可能。菖蒲湯やゆず湯等季節を感じて頂く等、入浴を楽しむ支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字を書く事が得意とする方には献立を書いて頂く等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(のどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き風景を楽しんだり、4月にはお花見に行き、自然を感じて頂いている。本年度は熱海の観光地にも出掛け、開催中の花まつりを鑑賞しながら散歩するなど、普段はなかなか参加できない市の観光行事に参加することができた		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の管理能力を考え可能な方は、お金を所持して頂き出かけた際の支払いをして頂いている。また、普段は本人が所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らの希望により手紙を書き添えていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性同士の座席や気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、別にテーブルを置き過ごされる場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切りぬきを飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		

## 目標達成計画

作成日: 令和 元年 6月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害、土砂災害の対応で1階の利用者を2階にあげる訓練の必要性	水害、土砂災害の想定で1階にの利用者を2階にあげる訓練を実施する。	年1回の訓練を行う。	6ヶ月
2	35	他の災害想定避難シュミレーション	①地震想定避難シュミレーションを実施する。 ②災害用伝言ダイヤル操作方法を周知する。	①②年1回実施する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。